

1-522

83-44

復命書

先般再び支那出張を命せられ本年九月十日大阪を發し爾來日誌の通り各地を巡回して十一月十二日略ぼ目的の視察を了へたるを以て上海抜錨の神戸丸に搭じ同月



十一月十二日神戸に於て着歸社仕り候
方中既に杉山理事の視察せられたるものあり白莊司回漕店長の視
るもの等あるを以て之れを省略し茲には唯だ其他一二の概略を記
一覽候也

明治三十二年十二月

主事 石原市松

社長 中橋徳五郎殿

北

北清韓國長江蘇抗視察の概略

目次

一	日誌	一頁
二	支那の商業	二頁
三	北清	三頁
	威海衛、芝罘、牛莊、塘沽、天津、秦王島	
	秦王島見取略圖、北京	
四	韓國	二十四頁
	仁川、京城	
五	長江沿岸	三十頁
	南京	
六	淮河	三十五頁
	蘇州、杭州	

北目

日誌

○九月十日神戸出帆の神戸丸に便乗して上海に向て發途せり○十四日上海着便船の都合にて二三日上海に滞留○十七日上海出帆の通州號に搭して芝罘に向て發す○十九日芝罘着○二十一日芝罘出帆の福州號に搭して牛莊に向て發す○二十二日牛莊着即日仙臺丸にて芝罘に引返す○二十三日芝罘着即日景星號に乘船太沽に向て發す○二十四日太沽に着即日塘沽より瀛車便にて天津に着す○二十六日瀛車に搭して山海關に向て發す○二十七日北戴河に歸り直ちに秦王島に往復す○二十八日天津に歸る○二十九日北京に到る○十月三日天津に歸る○五日天津より塘沽迄瀛車便直ちに山出帆の玄海丸便にて芝罘經過仁川に向て發す○八日仁川に着す○十日京城に赴く○十二日仁川に歸る○十三日仁川出帆の弘濟丸にて長崎に向て發す○十五日長崎着○十七日長崎出帆の神戸丸にて上海に向て發す○十八日上海に着す○二十日揚子江航行船大井川丸にて漢口に向て發す○二十三日漢口着即日

出帆の大元丸にて宜昌に赴く○二十五日宜昌に着す○二十九日宜昌發の大元丸にて揚子江を降る○三十一日漢口に着即日漢口出帆の大通號に乘船す○十一月二日南京に着す○三日南京より江永號に搭す○四日上海着○五日裕源小輪船に搭す○六日蘇州に着す○七日杭州に着○九日上海に着○十二日上海出帆の神戸丸にて歸朝の途に就き○十六日神戸港に歸着即日歸社

北一

支那の商業

北二

支那の商業を視察するもの其始めに在つては土地廣く人民多きに心酔し直ちに直輸貿易を経営せんと欲し中頃に至りては支那商業には習慣故實の煩雜多く一定の通貨なく度量衡は區々にして動もすれば誤算を生じ商業の組織と取引とは廣大にして金利低く資金の豊富なるに驚き逡巡の意を生じ最後に至りては我が物品の彼地に於ける販賣代價は我が製産地に於ける原價と殆んど相等しきものあるに疑團を起し又彼等が團體の結合力を利用し新渡の商人を壓倒するを怒り遂に初念を翻すものあり成程支那商業取引には習慣故實の面倒あり通貨の不定あり度量衡の區々たるあり從來我が一規律の整然したる前に營業し居るものは俄かに煩雜を覺へ困難を感ずることあるべし然れども之を習ひ之に慣れば妙味と利益とは却て此困難煩雜の内に存するものと謂ふべし

彼れ支那商人は政府に信服せざるを以て自治の念盛にして團體結合の力非常に強し故に動もすれば其結合力を以て小弱なるものを壓倒することなしとせず然れども若し我強者の位地にあらば彼輩は頭を低し尾を掉ふて我に服従するは彼等が祖先傳來の特色にして彼我の位地茲に違すれば同一の物品にして小弱者は千兩と稱し強者之を千五兩と稱するも強者の物品を信用し之を購入するは敢て珍しとせざる事實なり茲に尤も研究すべきは彼れ支那商は金利低く資金豊富なりとのとは果して事實なりや否やの問題なりとす我輩の視察する所に依れば彼等の一部分を除くの外金利は大概我邦と大差なく又商店悉く豊資なるにもあらざるべし彼の清國漢口は支那人の稱

する天下四大鎮の首位に在り内地中央の一大市場と稱す然るに千八百九十七年年末に迫り漢口に於ける外國輸出品中の牛皮取引に故障を生じ十數万兩の代價不渡となり加ふるに成宜懷氏は中國通商銀行の資本を漢口武昌漢陽の三所に於て六十萬兩を募集せり二口合計僅かに八十萬兩に足らざるに金融之れが爲に閉塞し漢口の票號錢莊の倒産したるもの十有四家の多きに迫り又金島漢口支店員の調査に依れば票號錢莊の資金と預金とを合算したるものを併算したるものより少くも五十倍以上の銀票を發行するものなることを確めたりと

右の事實に依れば支那商人は決して我國人等が妄想するが如き低利豊資を利用するものにあらず唯金融機關が或る欠點を有するに拘はらず非常に發達し信用取引信用貸借が非常に多き結果一見豊資低利の外概あるに過ぎず故に我對手にあらずとの畏怖心を去り十分研究の經歷を積むを要す尤も支那商人は韓國商人の如き貧弱なるものと同一の談にはあらざるも益視察し益研究すれば遂に我好市場の對手たること疑なしと謂ふべし

○北 清

茲に北清地方と稱するは芝罘、威海衛、塘沽、天津、秦皇島、山海關、牛莊、北京等に過ぎず而して其地は礫礫砂磧、阜濕、沼澤諸々に散点し唯だ蘆荻の跋扈に二任するの地方なり之を細説すれば威海衛地方は山又山にして其土赤色を帯び米麥に適せず芝罘地方は赤土と灰土との二種にして赤土は米麥に適せず灰土は灰土は人糞を和し家厩に堆積し耕時に及んで之を耕地に散布するものにして此の如き耕法を行ふ數千年其土は殆んど

北三

灰土と化せり然れども野菜の栽培には尤も適當せるもの(如し)僅かに植菜に適するに過ぎず牛莊地方は豈、高粱に過ぎず太沽塘沽地方は穀物を産せず唯だ製鹽所と爲す京に至るの間は唯だ高粱を培植するのみ塘沽より山海關に至るの間昌黎樂州の間往々にして粟、陸稻、麥、黍、稗、等に適する土地あるを視る其他ハ概ね高粱を栽培するに過ぎず然れども開平唐山地方は煤田あり採坑盛なり然れども上海の石炭市場に上りて賣買せらるるものは日本炭の二割に足らず唯だ招商局江南器械局其他官局に無理やりに使用せしむるのみ其炭質は硫黄分を含むこと多量にして船舶用としては屢々危險に遭遇するところありと云ふ其他此近傍には石灰石を出す我邦の石灰石は白色又は灰藍色を帯ぶるもの多きも此地方より産出するものは白色に茶褐色を混交せるもの多し

地方より産出する産物概略斯くの如し故に人民の常食も豈、稗、高粱、粟の類に過ぎず北京其他市街に於ける上流社會は他省の稻米を食するを以て古來海運の發達せざる時に當りては運河の効莫大にして現時招商局等は是れが運送を引受け居ることなれば利益又大なりと云ふべし我輩が北戴河より秦王島に到る途中白塔峯驛を過ぎ飯舎に憩ふ傍ら旅人ありて午餐を喫す一皿の豆腐と一皿の鹽菜と二碗の稗飯を食せり其價を拂ふを見るに六七文に過ぎず然らば彼等が毎日食ふ處は二食にて一日の食料僅かに弗の二仙二厘乃至一仙四厘一ヶ月三十九仙乃至四十二仙に過ぎず以て細民の生活程度を知るに足るべし

北清地方家屋の制は地方に依りて多少の相違あるも一般に平屋にして磚瓦を以て三面を囲ひて僅かに一面を開き木材の椽柱梁桁を以て明取を設け一面を捲へり瓦を以て屋根を葺くも地方には太極鹽分を含める粘土を乾固し之を疊みて磚瓦に代るものあり之を細説すれば威海衛芝罘地方は山岳多くして赤色の粘土に富み薪炭を得るに便なるを以て磚瓦を製造する業多し故に家屋を築くには必ず磚瓦又は石を用ひて之を疊みて四壁と爲し屋根は瓦を以て葺き家屋の制は韓國と同じく二棟立にして正面の棟は店棚之を過ぎ中庭を経て一棟あり家人堂房に供す中央以南の地方に比較すれば總て低し牛莊、太沽、塘沽、天津の一部北塘蘆葦等は其土鹽分を含みたる卑濕の地に於て薪炭なく磚瓦を製するに難せず且鹽分を含みたる粘土は之を乾固すれば頗る堅緻なり故に泥土を磚瓦形と爲して之を乾固し之を疊覆して四壁と爲し枋樹を並べて家梁と爲し高粱の莖を捲ひ其上に泥土を塗り屋蓋とするものあり昌黎以東山海關附近に到れば山岳あるを以て石を疊み磚瓦を積み四壁と爲し瓦を葺て屋蓋と爲す然れども家屋の制は益低く山海關城内市街を除くの外殆んど朝鮮家屋と同一の觀あり之れ冬朔寒冷にして室内に簾席を設け煖を取るに難せしむるものと想はる

北清地方の民度斯くの如し然らば將來に於ける地方需用品は如何なる程度迄進歩するや綿布、絹糸、石油、火柴、砂糖、海産物等の如き日用品は益増進すべきも其他に至りては見込無かるべし何となれば北京、天津の如き大市街はあるも天津ハ唯仲買に依りて利を得るに過ぎず北京は全く他省の供給に依りて衣食するものなれども元來支那は古來より租税を重ふると以て惡政とし現朝に於ても目下國費多端の折病なるも租税

と指徴することを躊躇し若し之を爲さば人民は總べて政府は政府、人民は人民なりと全く別種の考を有するが故に之が爲めに暴徒相集まり叛旗を擧ぐると云ふが如きは數千年來傳へ來りし歴史上の弊害なり故に國庫の欠点は必ずや外來の資本を以て之を處分せざるべからず是れ海關又は監金税に因りて行んど欲するが爲めに日用品以外の物品は非常の高位となり需用を増進せざる一方には北清の人民は南清に比し寧ろ薄資又は出稼人なるが爲めに一層物貨の購買力が遅緩なる觀なきにしもあらずるなり是れ日用品以外の物品の需用起らざる原因なりとす

然れども日本人たるものは失望する勿れ或る統計に(確實ならざるも)示す處に據れば東三省及び直隸山東の二省は土地の面積我が十三万二千九百二十方里にして約我面積の五倍半に當り人口七千三百九十八万八千余ありと云ふ假りに北清の人口七千万人なりと定め一人が十年目に綿布一反を購ふとするも毎年七百万反を費し之を五十反入の箱詰と爲すも十四万箱なり七百万の戸數ありと假定し窓繻扉戸を貼るに朝鮮紙を使用す之を日本紙とし毎年一戸百枚を使用すれば七百萬枚二十枚一帖とすれば三千五百万帖十帖一束とすれば三百五十万束を使用するものなり要するに北清地方の人民貧弱にして生計の程度低しと雖も其人口の夥多なる上より論ずる時は我全國の人口に優るも劣るとは勿かるべし故に前途は極めて有望なりとす

然れども茲に研究を要すべきは清國に於て商業上と政治上との干渉なりとす我輩の視る處に依れば互に相反馳せる現象を視る即ち人民の彼我相往來し相親む處は距離近きも政治上の關係は相遠きかり反之彼我相馴れ相侮る處は政治上の干渉薄くして

商業上の關係厚く彼我互に相敬ふ所は政治上に厚くして貿易上の觀念甚だ薄し之を事實上より論ずれば北京其他天津牛莊地方等に在りては政治上の關係は兩江總督湖廣總督が百事日本の政令を慕ひ之に模倣せんと欲するものと日を同ふして語るべからず人民特に下級海員輩に至りては其現状は常に彼等が相指揮する所なるに拘らず貿易は益相進み兩江總督(一部を除き)湖廣總督四川總督閩浙總督の管下に於ては彼我の貿易は毫も視るべきものなきに拘らず政治上は日々益相接近するの事實を視る

茲に於て一度は貿易上關係なく又關係なき地方に於て政治上互に相接近するは彼の二十七八年の戰役に於て我國を買破りたるにあらざるか又貿易上關係厚き地方に於て政治上相接近せざるが彼我の狀態を知悉したるより相侮りたるにあらざるかと疑れたり然れども眞逆斯くの如きものにはあらざるべきか能く研究を要すべき事柄なりと信ず

日本と歐米との貿易は彼より輸入する物品は反物を除くの外多くは歐米品其儘に形様を變化せずして使用すると雖も支那と各國の貿易は各國より輸入するものは大概支那風にして日用品以外の歐米風貨品に至りても使用の途あらざるを以て殆んど輸入の必要を視ざるなり之に反して日用品の輸入が年々歳々増進するは全く洋品は使用上便利にして利益大なるを以て終に支那製品を壓倒するに至るなり洋布は彼れの綿布を壓倒し洋糸は彼れの綿糸を壓し煤油石油は彼れの植物油を壓し洋傘の如きも彼れの紙傘を壓しつゝあり特に北清に於て之を記述するは其當を得ざるも我が杞

憂の土が我が洋傘の前途を憂ひ意匠構造が歐品に劣り漸次我販路を侵害せらるゝを憂へり成程一利あるの説なりと謂ふべし然れども千八百九十八年の海關貿易簿冊に依れば支那各港輸入の洋傘六十三万七千九百四十八把にして其内五十四万四千六百九十一把は日本より輸入したるものなり其日本より輸入したるものは一把僅かに三錢六分に過ぎず歐州より輸入したるものと雖も一把僅かに九錢なり又彼の洋傘たる彼れが如何なる階級の人民に使用せらるゝか其範圍は居留外國地に入出する貿易商人若くは外商の雇人否らざれば田舎漢なり何となれば支那市街は孰れの地に於ても肩摩駁擊殆んど洋傘を用ゆるの處なし之を用ゆるは外國人居留地か市街外の田舎道路のみ又人民の階級にしても中流以上は勿論中流以下と雖も少しく外觀を競ふものは輪に瀆するを常とす是洋傘を使用するの必要なし其用途斯くの如し故に堅牢なるを要するも精巧美麗は敢て要する處にあらす故に意匠は美麗に頼着なく堅牢にして安價なるものは何品にても輸入に適すと云ふべし

威海衛

威海衛は約北緯三十七度三十八分東經百二十二度十一分に位し山東省登州府文登縣に屬し芝罘を南に距る四十四哩の處にあり其地勢は北西南の三面は山を以て之を圍ひ一大灣を爲し灣の前面に劉公島の横るありて東西二口を開く

往昔我足利氏の末世に當りては夫の倭寇なるものゝ出て朝鮮支那の沿岸を侵略するに當りては常に其襲撃を被りし所にして山上倭寇の碑文ありと聞く初め勃海灣に要

塞を設くるや此地は旅順口と俱に選ばれて勃海南頭の軍港となれり二十七八年戰役の結果償金の抵當として此地は我軍の駐屯する處なりしに償金の皆済と共に我國駐在軍を撤し旅順口を露國が借受けたる權衡上英國は此地を露國と同條件の許に借用せり

劉公島威海衛共に商業地にあらす故に商業地に變更すべき價值なきは勿論軍港としての價值果して充分なるや否や港口ニヶ所を有するの利益あるも灣水深く陸地に侵入せるを以て港内防禦に安全ならず水路屈曲甚きを以て砲臺の對程港外より港内を窺ふを得べし我國が露國の故智に倣はず之を放棄したるは早見と云ふべし

現時此港に寄港する演習は招商怡和太古の三公司上海天津路船臨時寄港場なり我が日本郵船會社の香港浦鹽線も茲に寄港す予が通州號に搭じ茲に寄港したるときは英國小形砲艦一隻を碇泊せしめたり通州號の積荷は軍艦用酒罐詰十能櫃の類に過ぎず英國の軍は劉公島にあり太古の扱店も劉公島にあるものと見て該社の旗章を掲げあるを見たり

當地より芝罘に到る四十四海里上海に至る四百五十七海里旅順口に至る約九十海里にして威海衛は假令將來に於て商港と變化するも到底見込めざるべし

(上海威海衛間乘客賃金二十五兩)
(威海衛芝罘間乘客賃金五兩)

青島即ち膠州灣には古昔運河ありて北勃海灣に通ず地勢斯くの如きを以て鐵道を布敷するに適ひ資を得ざれば運河の再掘を爲すを得べし然るに威海衛は三面山を繞らし馬背に依るにあらざれば貨物を運搬する能はず巨資を投するも商業に適當ならん

るも青島膠州灣は此の點に於ては大に望ありと云ふべし

芝罘

芝罘灣は北緯三十七度三十三分東經百二十一度に位し山東省登州府福山縣に属す土人之を煙臺と稱す蓋し我足利氏の末世夫の倭寇襲來の警報狼煙臺を茲に築きしより起るものと云ふ煙臺尙ほ居留地の丘山に存す

其地勢は芝罘半島現時は守島なれど秦始皇此地に巡狩せられたる時始めて海を埋めて道を通じたりと相包擁して一大灣を爲す故に北西南の三面は風浪を障り東北東は大に風浪の冒す所となりて多期にありては時に舳舻舳船の航通を絶つことあり人口約三万五千輸入品は阿片、綿布、綿糸、火柴、石油、砂糖等を大宗とし輸出は草餅、荳、素麵、桐材、野蠶糸、絹紬等を大宗とす此地方は土地疲瘦耕作に適せず他の物産も從て寡少なり然れども貿易上より此地を視るに單に山東省登州府の一地方と視るべからず恰も廈門島人が臺灣に勢力を有するの同一にして旅順、大連、牛莊等總て遼東地方は山東人の移住出稼兼有に属するもの多し

千八百九十八年に於ける此地の出入船舶は二千五百六十三隻計二百三十二万四千三百三十七噸旅客出口五万九千六百七十一人同進口六万一千三百七十五人

當港は結氷の憂なきを以て終年船舶出入に差支なし且港口の出入容易なるを以て水先を要することなく又水先人もなき有様なり

當地の瀛船代理店はコルナベ商會、フハーガスリン商會、アソメ商會、スミス洋行、高橋洋行の五軒なり

駁船即ち荷物船は芝罘各瀛船會社代理店か合資共有に成るものなり船夫と放資者との關係は我が國の所謂刺し別けの制にして船賃より或る率に依りて是れを分收すれども其額詳ならず船夫と船頭とは四と六との割合にして船夫其六を收入す船築造費は船休のみにて、帆其他一切の附属具なし凡四百元荷物日本越包製繩糸半船板は船夫自身に船板を所有するものあり租借するものあり築造費四十五元租借賃は一ヶ月一元五十仙船客の船板賃は船客の自辨にして支那人なれば一人三仙以内歐米日本人なれば十仙なりとす

船中仲仕賃は一口厘切三十仙繩糸半船一個が二仙乃至一仙八厘に當る仲仕と仲仕頭との割合は一と二との割合に依りて分收す即ち仲仕頭が三分の一仲仕が三分の二を得るものとす

荷物授受の區域は多くは本船受取本船渡しなり然れども之れ責任と經費の負擔上より論ずるものにして交附の場所海關の海岸なり積荷なれば海關埠頭に受取り之を駁船に托し本船に至りて之を搭載す其費用は荷主負擔なり揚荷なれば本船より駁船に移し之れを海關埠頭に運來して荷主に渡すものあり海頭に陸揚げするものあり碼頭に於ける揚荷積荷の仲仕は駁船夫之を爲し其勞力賃は駁船賃に含むものとす海關碼頭に荷物を置くは五日限りにして六日目に至りて荷引取らざる時は瀛船會社又は其代理店は之れを自己の倉庫に藏置せざるべからず藏敷料詳ならず芝罘の客棧は概數八百と稱す然れども瀛船代理店は船客に就て取引あるものは其内

百三十余戸客棧内の構造は甚だ大ならず故に旅客二十五人以上を宿泊せしむべきものなし其價は二百四十文(日本人なれば五六百文)にして一泊二食せしむ
 洋人旅店は其一泊三食料七弗乃至三弗にして毎年九月より上等七弗を五弗半乃至六弗に減ずるを例とす是れ遊學洋客の減ずるの期節なるを以てなり
 支那客棧は南滿地方と同じく出稼移住を周旋するものにして近きは遼東遊きは露領西伯利亞地方に及び這の出稼移住は凡て客棧の手を経由するものにして客棧は出稼移住者よりは運賃立替に要する利息手数料を得て尙其外乘船券百枚に付十五枚乃至二十五枚を其搭載船買辦より戻し漏船の代理店より運賃上り高の百分の五を戻す習慣なり故に客棧は出稼移住者より得る手数料利息の外運賃上り高の五分及び切符戻しと共に二割乃至三割を得るものにして一見暴利なるが如しと雖も客棧は毎年二回其出稼地に渡航し五月端午と八月十日とに其立替運賃を取立つる習慣にして中々繁雜なりとす尤も遼東出稼移住者に對しては乗券戻しの習慣なし
 露領海參備及び遼東に出稼する船客運賃は各漏船共に盛んに競争するを以て殆んど一定の額なし然れども本年の運賃は海參備行きは十弗以下八弗位にして牛莊行費は一兩半きは墨銀の八十仙なりしと云ふ又這出稼人に供する食餌は何れの漏船に在ても買辦の請負にして其請負料の費きは運賃一割半きは一日三仙若くは一仙二厘のものあり一仙二厘のものは一食に乾麵包一個三厘のもの兩片と飲水と與ふるに過ぎず
 常港より各地に至る里程は上海へ五百一海里威海衛へ四十四海里營口に二百十四海

里塘沽に二百七海里旅順口に約九十海里秦王島約二百海里朝鮮濟物浦に至る約二百七十海里にして各港に至る乗客運賃の大約左の如し

旅順口	一等	四〇〇	三	等	一〇〇
牛莊	一等	一五〇〇	三	等	一〇〇
塘沽	一等	二〇〇〇	三	等	二七五
上海	一等	二五〇〇	三	等	七五〇
濟物浦	一等	一六〇〇	三	等	五〇〇
秦王島	一等	三十兩	三	等	十兩

牛莊港

芝罘港の將來は充分なる見込勿かるべし故に陸上設置は今俄かに之を爲すは固より研究をも要するに至るまじと想はる

牛莊港は北緯四十度五十二分東經百二十二度八分に位し奉天省奉天府海城蓋平二縣に属す土人之を營口と稱す又上流にあるを東營子と稱して外國人の居住する所下流にあるを西營子と稱し清國人の市街に属す
 其地勢は渤海灣東北隅遼河の下流にあり而して營口は遼河を遶ること十四海里の左岸にありて人口約六万人(千八百九十八年の海關報告に依る然れども日本駐在領事の話に依れば十万以上)輸出品の大宗は荳、荳餅、羊毛、金、煙草にして輸入品の大宗は綿布、綿糸、海産物、火柴、石油、砂糖の類なり

千八百九十八年に於ける此地の出入船舶は四百六十八隻四十一万三千八百八十五噸
旅客は進口四万三千九百六十一人出口二万三千六百五十八人而して日本船舶の出入
したるもの **百三十三** 隻にして出入二百五十回なり最近三ヶ年間に於ける日本船舶と外
國船舶との比較は左の如し

年	日本 船舶噸	數 外國 船舶噸	數
千八百九十六年	三七	六、六四〇	三五六
千八百九十七年	五二	四二、九七七	三六二
千八百九十八年	一二二	一〇〇、九五六	三四六

當港の解氷期は陽曆三月中旬より四月上旬の間にして結氷の期は小雪節とす然れど
も氣候の寒暖に依りて前後の差あり水先人組合あり組合水先人八人なり
水先料は遼河口より營口子迄喫水一尺に付四元にして結氷期即ち小雪の節後結氷せ
ざる爲め凍船の通航を企つるものあるときは水先料は加倍の習慣なり
凍船取扱店は招商局、太古洋行の支局、フツ、ユ商會、ハン、ツ、メル商會の四軒にして推棧
碼頭棧橋を有するものは招商局、太古洋行(假設)開平炭礦局の三ヶ所なり
搾油房は大小二十余戸にして其大なるは太古、元旗、昌洋行にして孰れも洋式機械を使
用す他は從來の支那風のものを用ゆ
北清鐵道(本名津榆鐵道)是れ清國北方に於ける鐵道にして其起點を天津に發し一は北
京に至り一は塘沽に來り更らに分岐して山海關に至り中後所まで開通せり夫より

錦州を経て新民廳に達り終に遼河を渉り露國の敷設せる東清鐵道に聯絡し又支線は
廣寧附近より分岐して營口に達するなり其營口車站は對岸にあり目下築造中により
東清鐵道は西伯利亞鐵道の大連灣に出づる幹線の名稱にして目下工事中のものは鉄
嶺、奉天、遼陽、海城、復州、大連灣、旅順口間及海城の大石橋より分岐して牛家屯に達するも
のを合せて四百六十九哩なり牛家屯、營口を去る六清里大連灣間は本年中若くは明春
に竣工すべしと云へり牛家屯車站は大半竣工せり鐵道の軌條は清國鐵路は四呎六吋
にして東清鐵路は五呎なるを以て他日瀋陽、奉天、牛家屯、營口を以て他日瀋陽、奉天、牛家屯、營口
と能はざるは遺憾なりと謂ふべし

然れども遼東は東清、北清二線に依りて將來の發達は更らに疑ふ處なし論者或は鐵道
開通の後に其不凍港なる大連灣に商勢は移轉すべしと云ふものあれども北方互寒の
地は冬期を以て休業の期と定むるは數十年の習慣なり此習慣が一朝にして四季無休
業の人民と變化し俄かに大連灣に其商勢が移轉すべきとは思はれざるなり故に牛莊
港の陸上設備は機を見て之を爲す必要あり特に廣漠なる專管居留地あるに於てをや

塘沽港

塘沽港は約北緯三十九度東經百十七度四十二分に位し直隸省天津府天津縣に屬す
其地勢は渤海灣北西隅白河の下流にあり(白河は一に北河と稱す其河路九十九屈曲を
爲す故に百字に一畫を省き白河と稱するの溪あり)而して白河口の河州沖に重喫水の
錨地を湖航すること九海里にして河の右岸にあり
當港の解氷期は千八百九十九年以前の四年間に於て陽曆二月十八日乃至三月六日に

して其結氷は大翌の節とすれども年の寒暖に因りて前後の差あり元來白河は百曲殊に近來河口に土砂の沈澱せし爲め船舶の出入容易ならざるを以て水先人組合あり其員數十二人水先料は太沽沖合より天津の紫竹林迄喫水一呎に付十元(現時は白河の水を運河に引きたるを以て殊に減水し爲めに漁船は茲に運する能はず)太沽沖合より塘沽迄が喫水一呎に付五元(地變更料が二元なり)

大沽沖合及營港には天津に本店を設立し居る太沽駁船会社の船あり鋼鉄製駁船二十九隻小蒸氣船十四隻常雇苦力九百人を備ふと稱す小蒸氣船の登簿噸數は六十一噸乃至四噸にして駁船の噸數は三百七十八噸乃至八十三噸にして其大なるものは六百噸を搭載すと云ふ駁船賃は太沽より天津迄招商局、太古、怡和の三公司は一担六仙他は悉く一担八仙船中仲仕賃は太沽沖は一箇十三文塘沽は一箇十文とす

北清鐵道は天津より南下し來り更に北折して山海關外の中後所に達す他日は錦州を経て營口に達すべし天津に至る鐵路二十七哩にして中間車站は新河軍糧城の二ヶ所なり車賃は塘沽、天津間頭等五百六十文二等二百八十文なり

既に計畫に着手せる白河浚渫の計畫にして若し其効を奏すれば當地は別段要地にあらずるも若し其目的を達すること能はざるものとせば運送業者に於ては輕々に看過すべき土地にあらず必ず相當の陸上設備及び棧橋の築造等を要す現時塘沽車站附近の土地は一畝五六百兩なりと云ふ

一步却て顧るに白河の浚渫工事其効を奏すれば一見塘沽の設備不要に歸すべしと雖も元來浚渫工事は一時の流寓外國人が二三支那人の經歷談を参考として計畫せしと

なれば其目的を果すや成功すべきやは頗る疑を抱くもの獨り吾人のみならず人毎に之を唱道せる有様なれば塘沽に相當の地所を購求して陸上設備を爲すこと刻下の急務なりと信す

現時塘沽車站鐵道棧橋に船舶を繫留すれば一回二十兩を要す棧橋上を貨物の揚卸に使用するときには登簿一噸に付三分又水揚仲仕賃は一箇十六文棧橋より鐵道積入迄に一箇に付二十文を要するなり

塘沽に於て石炭を要するは容易にして川岸に石炭を積で山を築けり此石炭は皆開平炭にして一噸七兩六錢位の相場なり之を船舶に移すには別に駁船賃又は苦力賃をも要せず一切之を包含したる價格なりと云ふ然れども人足賃を打算せば駁船苦力賃は概略一噸に付二錢五分乃至三錢を要すと云へり

天津港

天津港は北緯三十九度九分東經百十七度七分四十八秒に位し直隸省天津府天津縣に屬し通商碼頭は其紫竹林にあり

其地勢は平坦界濕にして眼珠の遠する處一点の岳山を見ず白河を溯ると(太沽より)七十五哩塘沽より鐵路に依れば天津紫竹林の對岸迄二十七哩余)にして其右岸にあり人口約九十五万人外國よりの輸入品は綿布、綿糸、火柴、石油、砂糖、阿片の類にして各省特に長江筋より輸入品多し一概に之を評すれば北京の咽喉にして北京天津地方は土地に物産なく工業なし故に百般の需用は悉く之を他省に仰ぎ其商品は太抵天津を經過するものどす又輸出品は羊毛、駝毛、猪毛、皮革獸骨の類に過ぎざるなり

千八百九十八年に於ける船舶の出入は千四百四十六隻計百三十四万六千噸にして殆んど塘沽迄なりとす往時は當港に着する船舶大數を占められたれども河筋に土砂沈澱したるが爲に本年の如き一隻の船舶だも送ること能はざる始末なりと云へり

太沽駁船公司は當地に根據を占め資本金五十万兩にして小輪船十四隻駁船二十九隻と太沽に鉄工所及船渠を所有す其株主は太古洋行怡和洋行及び其重立たる外商支局の支配人等なり現今に於ける同社の營業は實に不親切なり其故は舢舨に於ける貨物輸送に因り損害を生ずるも決して賠償の義務に任せず其取扱極めて粗暴にして爲めに其損害は漁船主の負擔に歸すること夥しきを以てなり然れども其貨物輸送を寄託するものにして直接損害に遭遇するものは所謂太沽駁船公司の株主なれば同公司にしては荷物損害等を其株主に與ふるも自己の營業即ち荷主漁船主の放資せる太沽駁船公司さへ損害なければ要するに營業の好結果を奏する故なりとの理由を以て荷物損害要償の談判あるも一切之を峻拒せりと云へり同公司の惡弊の原因は以上の如きもの主因たるや否や尙之が研究を要するなり然れども元來北清の苦力は長江其他の苦力に比較して非常に惡弊あり長江に於ては組合の習慣嚴重にして之を使役するものも其窮屈を感せる程なり故に其惡弊なき一例を挙げんに銀塊銀貨銅錢の運搬を一任し率領を付せざるも毫も懸念なきに反し北清地方には古來より苦力に惡弊多きとは有名の地とす夫の南糧北運に運河を利用し通州(北京の附近)に於て貢米を接續運搬する時は通州苦力は裸体にて之を運ぶ習慣なり清人が我が漁船の乗組水火夫が下股を裸するを見てさへ醜体となすにも拘はらず古來通州苦力が玄米を竊取するを豫防

するに裸体者として之を使役するの舊習より案するも當に太沽駁船公司の株主が云云と稱するは非にして此苦力の改良を要すると一方には駁船公司以外に貨物の保管人を附するを要す現に三井物産支店は之を爲しつゝあるが大に好結果を奏しつゝありと云へり

現時天津に於ける專管居留地は上流より計ふれば日本、佛蘭西、英吉利、獨乙にして日本と佛國とは白河船橋の上流にありて駁船を上下せしむるに不便あれども支那街に近接するを以て荷物の授受するには便利あり英國居留地は招商局、太古、怡和三公司の小棧橋あり堆棧あり若し上海天津線を開始するとせば是非共堆棧即ち倉庫は建設せざるべからず倉庫を建設するに二説あり一は我が專管居留地に於てすれば支那市街に接近せるを以て荷物の授受到に經費を要せずして頗る便利なり然れども駁船は船橋を経過せざるべからず是亦不便とする處なり一は豫備居留地に建設すれば水陸の連絡宜しくも支那市街に遠隔なれば荷物の授受到に經費を要するを以て支那顧客之を欲せざるべしと現今に於ける荷物の授受は洋反物以上の物品にあらざれば大概は居留地沿岸に堆積して之を授受す堆棧に藏置すべき日限は上海天津線は十日を以て期限とす沿岸繫留船費は一噸に付四仙五厘沿岸堆積荷物仲仕賃及盡守番人は一人一日二百文乃至三十兩一千噸以上は三十五兩沿岸堆積荷物仲仕賃及盡守番人は一人一日二百文乃至三百文舢舨及沿岸荷物夜番賃一夜一人三百文乃至四百文減水の時駁船江岸に接近する能はざる時は足場船を使用す一日の借賃一隻に付一元江岸堆積荷物根敷材上掩ひに使用する草藁、損料四十元乃至五十元代理店手数料二十五兩と輸出荷物手数料運賃

高の百分の五船客手数料運賃高の百分の五領事館出入港手数料五元五十仙なりとす
元來天津は輸入港にして輸出港にわらず故に代理店の如きは荷客運賃上り高の幾割
を以て手数料として之に依りて利益を得る能はず故に輸入荷物取扱は殆んど無責任
にして尙ほ種々の名稱の許に利益を謀るを目的とするものと云ふべし

秦王島

秦王島は北緯三十九度五十四分東經百十九度三十八分直隸省永平府臨榆縣に属す土
人が語る所に因れば秦始皇此地に遊びて命名したりと云へり果して然るや否や知る
べからず
其地勢は北清鐵路湯河車站の南方六七哩の所にありて長三四丁なる圓形の小島嶼な
り然れども土砂堆積して半島を形成し島上には一箇の神廟あるのみにして漁家一戸
もなし其對岸に於て二三の漁屋と冬期に開設する海關家屋にして現今是れ築港測量
事務所の使用せらるるのみ

此附近數哩の間は一体に砂礫なるを以て一朝北東の風關外地より吹き來る時は砂礫
を捲き天日爲めに晝尙ほ暗黄となり諸所に數十尺の高を有する丘陵を作成せり當地
より諸方に至る里程は湯河に至る約六七哩山海關に至る約九哩北戴河に至る約十哩
眺れも砂礫中なるを以て鐵路を通ずるにわらざれば驢馬に騎するの外馬車、驢車を通
ずる能はざるなり

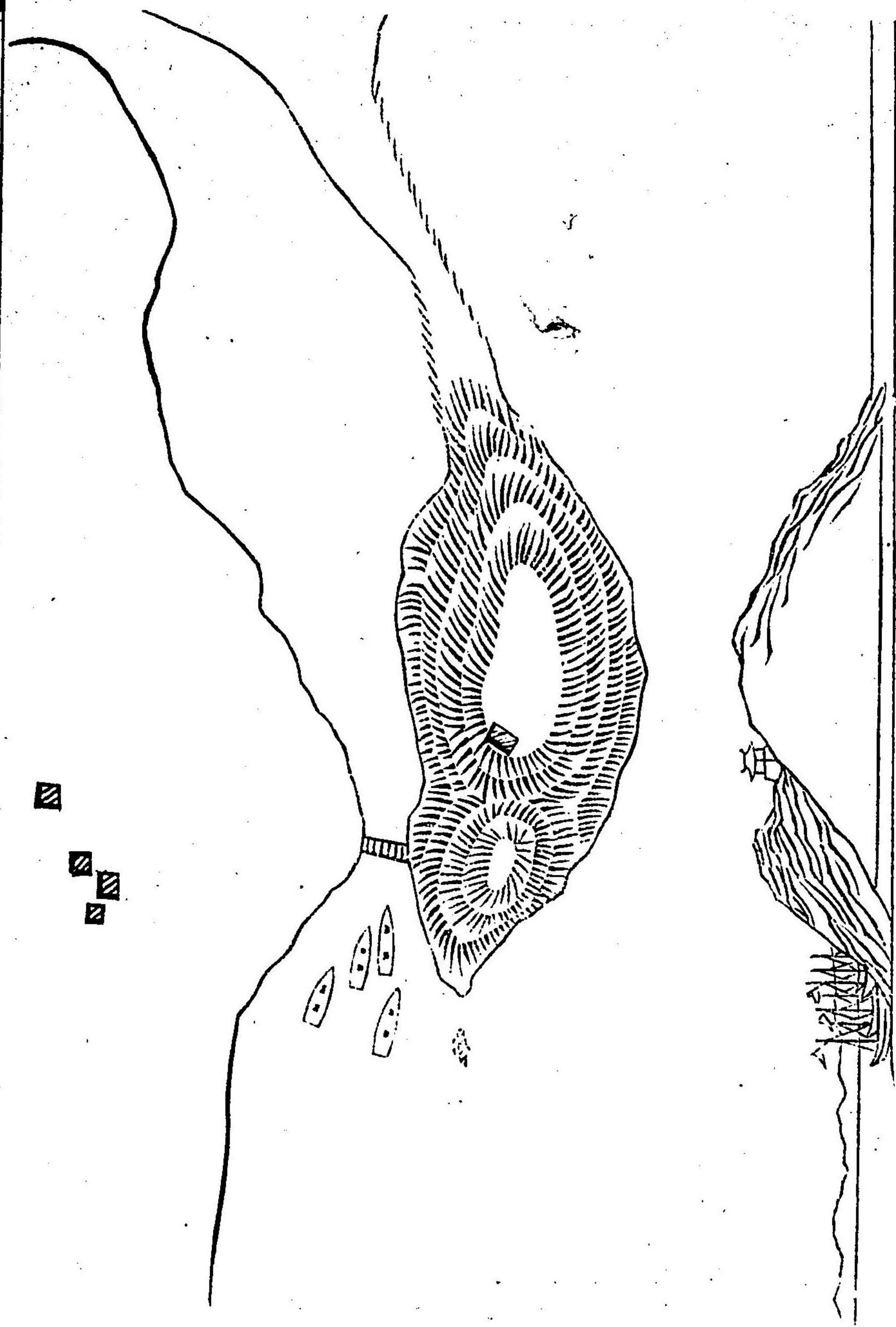
此頃計畫せる秦王島の築港は眞面目に視察識別せば頗る疑問多かるべしと雖ども蓋
しアットリソンの考案も恐らくは一千万兩を以て秦王島内に大船巨舶を繋留する
目的にあらずして大船巨舶は秦王島附近に投錨し駁船を以て船客荷物を上下せしむ
るものならん否らざれば到底秦王島内に人力を以て完全なる築港を竣功すること能
はざることも信ず故に吾人の想像する處に因れば秦王島は單に冬期白河の水結した
る上にて此港に漁船を寄らしめ駁船に因りて貨客を上下せしめ水結以前は依然とし
て太沽塘沽を主たる貿易港と爲すものと思はる

白河水結の間は北風の吹くに際して秦王島前の繫船は北風陸地より來る高浪を起す
に至らざるを以て錨泊安全ならん唯だ舢舨船を使用繋留する處なきを以て今回舢舨繫
留の不港凍を一千万兩にて秦王島に築き内外公衆が比較的の便利を得ると直接之に
關繫したるものを利益し得ると見れば大謬謬なからざるべし

此附近の都會とも云ふべきは彼の山海關なりとす山海關は約北緯三十九度五十八分
東經百十九度四十九分の所にあり戶數約一千八人口約一万余人なる寒村に過ぎざる
なり山海關より以北の鐵路は東前衛、後衛、中後所迄火輪車の回轉を爲せり錦州迄は軌
條の布敷を終り錦州廣寧營口間の工事既に殆んど竣工せりと錦州廣寧間約八十哩廣
寧營口間約百哩の事なれば日ならずして北清鐵路は牛莊(營口)迄の終點地に達すべし
元來此鐵路は西は塘沽に於て折れ北に走りて天津を経て北京に通ず山海關より塘沽
に至るは百四十五哩にして其間にある車站は湯河、北戴河、留守營、昌黎、安山、石門、灤州雷
庄、古冶、窪里、開平、唐山、胥各庄、唐坊、蘆台、漢沽、北塘の十七車站なり其中昌黎は韓氏の爲め
有名にして附近は果物の名産地なり開平、唐山は石炭の爲めに有名なり蘆台は現時兵
勇の駐屯せり北塘は往年英佛同盟軍の上陸地にして古戰場なり其他は稱するに足ら

す且特有物産なきを以て到る處貨物を搭載すること少量なる有様等より推せば此地方は以て富有地にあらざることを知るべし

秦皇島見取略圖



北京

北京城は北緯三十九度五十四分東經百十六度二十九分に位し直隸省順天府大興宛平二縣に跨り天津を距る鐵路七十九哩餘なり其城廓は長方形にして内城外城に分ち外城は内城の南方に連り内城は皇城を包み皇城は大内を圍む周回約二十四哩あり外城に八門あり永空、左安、右安、廣寧、廣寧、東便、西便、繁花にして道幅大なるは永空門より内城の正陽門に至る正陽大街なりとす内城には正陽、崇文、宣武、朝陽、東直、阜成、西直、德安の九門あり皇城に六門あり大内に午門、東華、西華、神武の四門あり概言すれば大内は皇帝皇居の住居にして之れに對する諸種數百の宮殿あり皇城には祭祀勸農に屬する諸壇賜宴に屬する諸亭山水庭園親園に屬する遊技的鍊武場等あり内城は諸官衙と八旗兵の邸宅外城は商買工匠の部落なりとす

外國公使館は正陽門内東交民巷にありて殆んど公使館町と名づくべき休裁あり北清鐵道は北京城外馬家舖より起り南方天津を経て塘沽に至り是より方向を東北に轉し山海關に至りて關外に出で錦州、廣寧、新民廳を経て奉天府に達し露國の東清鐵道に接續する計畫あり廣寧の東方にて分岐し營口に出づる枝線あり其哩數は大略如左

從北京馬家舖至塘沽(既設)	百七哩	從塘沽至山海關(既設)	百四十五哩
從山海關至中後所(既設)	約三十五哩	從中後所至錦州(軌條布設)	約六十五哩
從錦州至廣寧(工事中)	約八十哩	從廣寧至營口(工事中)	約百哩
從廣寧至新民廳(工事中)	約六十五哩	從新民廳至奉天府(未定)	約二十五哩

蘆漢鐵道は北清線路なる豐臺馬家舖車站より五哩を距る(車站より分岐し三ヶ所の車

站を経て保定府まで開通し保定、正定間は工事中なりと其哩数は大略左の如し

從豐臺至保定府(既設)

約八十九哩

從保定府至正定府(工事中)

約七十哩

從正定至漢口鎮(工事中) 六百八十餘哩

北京の人口は百八十万乃至二百万人と稱するも固より統計の據るべきものなく唯其概略のみ其風俗生活の程度と城内の貴族大臣は勿論奢侈贅澤なるべきも一般の人民に至りては長江附近に比較して其程度は更に低きものとす然れども裁縫店、製帽店、靴店の店頭には京式時樣等の招牌を掲ぐるもの多し我々外國人より見れば贅澤流行の中心点にあらざる北京に斯かる京式時樣の招牌を視るは頗る怪々に堪へざれども其國人にありては位置帝室の許にあれば自ら流行即ち時樣の中心点をなすものなるや否や

韓國

韓國即ち朝鮮は亞細亞大陸の東端に突出したる半島國にして其面積は我本洲の九分の八人口は約我三分の一強に當れり固より地積に於ては實測をなさざるの概算にして戶籍も亦た僅かに官府の簿冊に其形式を留むるに過ぎるを以て其詳かなる得て知るべからず
然れども古來彼我の往來絶えず唇齒輔車の干繫を有する國にして時に討伐を免かれざるも又扶植のためには我が師を起したると一再ならず歴史上の干繫斯くの如し貿易上の干繫も亦た殆んど我獨り舞臺なるが如し然れども此國元來貧弱なる農國なり故に貿易は農作の豊凶に依りて消長をなせり其累年を比較すれば年々幾分の増進を

なすも二十八九年後の進歩即ち貿易の増長殊に著しきなり運送業の如きも之に伴ふて益々増進擴張するの餘地前途多忙ありと云ふべし
沿岸及他國との交通船舶は露國船が海參衛に經過の途中元山、釜山、仁川の三港に寄港し獨商世昌洋行の顯益蒼龍の兩輪船が沿海を出入するとを除くの外悉く北清に通ずるもの南清に通ずるもの海參衛に通ずるもの我國に通ずるもの皆我が海船帆船の線路にあらざるなし

又本邦居留人員の最近調査に依れば左の如し

	釜山浦	馬山浦	木浦	群山浦	仁川	京城	鎮南浦	元山浦	城津浦	平壤
日本人	五千七百十三人	七十四人	八百五十二人	六百六十六人	四千三百八十八人	千九百九十二人	三百十三人	千六百五十九人	二十四人	約百人
支那人	五十人に足らず	不詳	不詳	不詳	三千人	千人に足らず	百人に足らず	不詳	不詳	五十人に足らず

右の外仁川に於て聞く所も依れば

開城 海州 江景

常住約二十八
紅參採掘には二百餘人
約十餘人
約四十餘人

北二十六

此外尙は行商にあらざる密商の行はる處は

法聖浦、所安島、統營等は常に邦人の居住するものを見る

韓國に於ける日清兩國の居留人を比較すれば清人の多數は農夫にして培業耕作をなすもの多し故に容易に他に移轉せず反之我國人は仲仕、船夫、人車夫等多き故に去來常ならず移住拓地の地歩を占むるに不適當なり要するに韓國各港は日清兩國國民の住民地とも云ふべき有様なり

韓國各地方の經緯度は左の如し

平壤	北緯三十九度三八〇余	東經百二十五度四十三分	位し平安道平壤府
甌南海	全 三十八度四十三分	全 百二十五度二十二分	位し平安道三和府
京城	全 二十七度三十五分	全 百二十七度〇分	位し京畿道漢府
仁川	全 三十七度二十六分余	全 百二十六度四十一分	位し京畿道仁川府
群山	全 三十五度五十九分	全 百二十六度四十三分	位し全羅道沃溝縣
木浦	全 三十四度四十六分	全 百二十六度二十六分	位し全羅道務安縣
馬山浦	全 三十五度十二分	全 百二十八度三十三分	位し慶尙道昌原府
釜山	全 三十五度七分	全 百二十九度二分	位し慶尙道東萊府
元山	全 三十九度十分	全 百二十七度三十分	位し咸鏡道德元府

城津 北緯三十八度四十二分

東經百二十五度三十六分

仁川港

仁川港は約北緯三十七度二十六分東經百二十六度四十一分に位し京畿道仁川府に屬す通商碼頭は仁川府の濟物浦と稱す其地勢は東北は山を以て圍繞し南は遙かに南陽を以て弱波となし西方は大小月尾島に依りて風浪を遮る然れども噴水深き瀆船にありては月尾島以外に投錨するを以て風浪の候には舢舨の航運を絶つとあり

人口約一万居留地は日本居留地、支那居留地、各國居留地の三區域をなす最近の調査に依れば居留日本人の總數四千三百八十八人、支那人三千餘人、朝鮮人二千餘人にして輸入品は綿布、綿糸、銅、錫、銀貨、地金、石油、鐵器、磁器、雜貨等にして輸出品は米、麥、大豆、牛皮、人參、五倍子、砂金の類なり

海運業者にして我が會社を除くの外茲に根據を占め若くは支店代理店を置きたる洋船會社は獨商世昌洋行は峇龍顯益の二隻を以て茲に根據を置き沿岸の航海をなせり堀久商會は海龍、慶濟、慶實を以て沿岸の航海をなし而して此二者は表面の名義は韓人の所持航海主と爲せり日本郵船會社は鎮南浦線、天津牛莊線、浦盤、香港線其他露商セベロフ商會の「ホストツク」の取扱を爲す等なり

當地より各港への海程は至芝罘二百七十海里、至鎮南浦二百〇三海里、至群山百十八海里、至木浦百八十五海里、至馬山浦三百七十二海里、至釜山三百八十二海里、至長崎四百三十海里、至海參崴九百四十海里にして當港航板貨は月尾島沖なれば貳拾錢乃至壹圓月尾島内なれば五錢乃至五拾錢にして天候の如何に依り上下するものとす

北二十七

船中仕賃は一噸貳拾錢にして内十五錢が仲仕拂ひ七錢を藏出し仲仕賃の補足に當るなり又藏出し仲仕賃は壹噸二十錢の請負にして二十六錢以上を仕拂ふ船賃は二十三錢の請負にして船夫收入十錢にして十三錢船主の收入なりと云ふ

龍山迄船小回し船賃積荷一噸に付八十錢乃至一圓五錢月尾島船仲仕は仁川港と異るとなし龍山仲仕賃は一個平均一錢一厘龍山京城間牛車賃一噸に付一圓

當港には日本風の旅店あり割烹店あり銀行あり醫師あり雜貨店あり浴場あり百般の事物日本的にして少しも缺くる處なし殊に當地の割烹店七軒が收入する金額は料理代藝妓代共に一ヶ年大凡十萬圓と見るも大差なしと云ふ而して藝妓仲居の数は約九十余人にして居留民の四分の一を占めり之に反して支那人は毫も是等の機關具備せざるを以て不愉快なる日を送るに相違なきも是等の費用を節約して之を營業資本に加へて以て商業の擴張に盡粹せりと云ふ日清商人の差此の如し豈に遺憾の至りならずや殊に當地に於ける屈指の貿易商人は近來多くは失敗したり其原因は種々あるべけれども彼等が云ふ處に依れば砂金購入は確かに其一原因なりと元來日本貿易商は多くは穀物の買出しに従事し其手段として燐寸唐木(唐木とは金巾木綿を指す)其他の雜貨を輸入し支那貿易商人は綿布、金巾木綿を指す(其他の者を賣込も代價回収の手段として砂金を購入し來りたるに第一銀行は支那人が朝鮮人より購収する直段よりは高價に砂金を購入し始めたるより支那人は茲に忽ち綿布代價の回収をなすものなきに至り止む)とを得ず日本貿易商と競争して穀物を買出し之を日本に輸入して是にて綿布代價の回収を終るへき策を講じたるより日韓直檢貿易は從來朝鮮凶作の余

抄々しからざるに搦て加へて支那人の競争に出會し這の失敗を視るに至れり云々と果して然るや否や濫費も預りて原因を爲せしならんか

京仁鐵道の現時開業せる哩數二十一哩六、三にして中間停車場は板岷、牛角洞、富平、素砂、梧柳洞の五ヶ所にして鶯果津に達す現時鶯果津停車場より龍山對岸迄約二哩は人力車鐵道あり漢口を渡航して龍山より京城迄は人力車あり他日京仁鐵道は龍山に於ける漢江の架橋を終らば一日數回京仁の往復交通を見るに至るべし然れども前途は果して有望なるや否やは疑なき能はず

當時仁川より京城に至るの費用は京仁鐵道上一圓二十錢中等六十六錢下等二十七錢入車鐵道上等三十錢下等十五錢漢口渡船五錢龍山京城間人力車賃五十錢右は日本通貨の計算なり

仁川の現時は忠清全部全羅北部黃海道全部の輸出港にして京城附近に對するの輸入港なり故に將來若し尙ほ黃海道の一都開がるに於ては全く輸入港となるや知るべからず

京城

京城は約北緯三十七度三十五分東經百二十七度〇分に位し京畿道漢城府に屬する開市場なり京城一に徐伐と稱す是れ古昔の徐伐の地なりしを以てなり然るに歐人は之を誤りて *Seoul* と稱し邦人中には亦た誤りて *Seoul* を總理即ち各都府を總理する首府の義となすものあり

地勢は四國山嶽を繞らし唯た南方龍山に通する一路のみ開けたり故に嚴冬は非常に

寒く盛夏非常に熱し

人口約五万日本居留地は南山の麓なる泥岬ニシにありて公使館領事館あり郵便局あり軍用電信部あり武官駐在館あり守備隊屯營あり警察署あり総代役所あり外國人の眼に映する所は朝鮮は獨立國にあらすして日本の保護國なるべし最近の調査に依れば我が居留人民は一千九百九十二人然れども悲ひかな半は人力車夫及其他の工匠勞働者なり

京城は北京と同じく日用の諸品を各地方に仰ぐの地にして概言すれば殆ど土に物産なしと云ふを得べし彼國人の說に依れば京城人は三南京城全羅忠清の三道の米を喰ひ開城の人參を飲み谷山成川の烟草を吃し晋州布を襲ひ統營冠を戴き全州扇を使用すと亦以て各地方の産物に衣食するを知るべし

茲を以て貿易開市場として現時は勿論將來と雖も餘り有望にもあらざるべけれども雜貨の販賣を擴張するには充分見込あるべし何となれば韓人は支那人が外國品を自國風に使用するに比すれば何程かは其儘に使用する風あり要するに支那人が外國品を自國風に使用すると我國人が外國風を使用するとの中間にありと謂ふべし以て一斑を知るべし

長江沿岸

長江沿岸即ち揚子江流域に屬する地方は其土地は膏腴にして其物産は夥多人民多く亞細亞に於ては印度に亞くの資庫なりとは洋人一般に賞賛する所なり太甚に至りては揚子江と黄河とを以て阿非利加に於尼羅河が汎濫して細泥を其區域に沈澱せしめ

之れに依りて肥料の効を顯はすと同じく揚子江、黄河の汎濫は肥料の効を有する細泥を止むなと論ずるものあるに至る成程北清地方に比較すれば膏腴なるには相違なきも本邦の田畑と比すれば其較差日を同ふして語るべからず黄河汎濫すれば家を流し人畜を殺し砂礫を飛ばし減水の後は其汎濫の區域は一面砂礫の荒野と化するが如き往々なるも之に反して揚子江常時汎濫區域は水流減すれば蘆荻繁茂し水流増加すれば之れを蔽るのみにして決して耕地に肥料分を覆留して耕耘に資するが如きものにあらざるなり

然れども北清地方に比較すれば米麥其他雜穀、綿花、茶、煙草、阿片、麻を産し礦物に至りては鐵坑あり金銀坑あり天然曹達、石炭、山鹽、錫、鉛、アンチモニあり蠶桑行これ鐵あり漆あり木油あり牧畜行はれ飼鳥行はれ唯た養魚の行はれざるのみ技藝品に至りても四川の錦、荆州の緞、漢口の天鵝絨、紗南京の綵、緞四川湖北の竹編漢口の吃烟器、九江の銀錫器景德鎮の陶器、南京の裝飾品等あり要するに長江流域は支那固有の物産工藝に至りては他に仰ぐもの尠なくして他に供給するもの多し故に膏腴富有の名を下すを得べし然れども之れが一部を細觀すれば農民の我農夫より賣なる原因あることを瞭知するを得べし

農作を述べんか米麥共に面積に比較すれば彼れが一段の收穫は我五畝の收穫に劣るべし然れども彼は肥料を與ふる稀有にして我は肥料を要す綿花の栽培を見れば殆んど野生かと疑はる耕作には蘇浙江安徽地方は水牛を使用し江西湖北の東部は水牛陸牛を混用し湖北西部地方には騾馬を混用す湖北西部の地租は一畝我百七十餘坪に付

金納四百文(我約四十錢に當る)にして地方税なく所得税なく登記税なく印紙なく公私の義捐なく殆んど皆得と云ふ有様なるに一朝凶事に遭遇すれば子女を賣り一家離散して他郷に漂流する之を流民と稱す恰も洪水に塵埃が伴ふて漂流すると一般にして其狀敗軍降慮の放逐せられたるものに似たり

養蠶茶業の亂暴なる我當業者の一驚を喫する所なり、杭州蠶學堂の蠶學教員は數年前日本より聘する所なり該教員の語る所に依れば養蠶に無頓着にして幼稚なる驚くに堪たり桑葉は可なれども學堂を設立せざる前途は未だ蠶兒の罹病の有無を知らざるのみならず蠶蛾を殺して絲を執るの道を知らず蠶虫繭を結び未だ蝶と化せざる中に日

を限りて絲を取るを以て非常に人を要し爲に事業を擴張する能はざりしが學堂設立以來之を殺すの道を教へ始めて漸を以て糸を取るとなれりと(工織品中陶磁器の如きは我邦人は彼の製品を買すれども彼は我製品を買し到底其巧致に及ばずとなせり製茶所は九江漢口等にあるも多くは露人の經營する所なりとす

現時彼れが輸出を獎勵する所のものは製絲所にして上海附近のみに數十ヶ所あり一起一倒は免かれず(彼れが輸入を防止せんとするものは紡織所にして上海附近に十有六ヶ所あり其他武昌に一ヶ所あり火柴の製造所又漢口其他にあれども多くは外人の手に屬するなり

阿片の栽培は四川を最とす湖南之に亞く湖北は宜昌地方に於て土人の吸用に供するのみを栽培するに過ぎず

長江本流の貫流する處は重慶上海間に於て四川湖北湖南江西安徽の六省に跨り其西

南京

積は我八百万一千〇十方里にして殆んど我が面積の三倍三割余なり人口は一億七千九百六十一万七千余を有し我人口の約四倍に當れり此の如き多數の人民が毎五ヶ年間洋布一匹を使用すれば三千五百九十二万三千四百匹を要し五十匹入洋箱に換算すれば七十一万八千四百六十八箱而して此六省は印度支那日本の諸紡績が競争場と假定し其三分の一を日本より供給する者とすれば毎年二十三万九千四百九十六箱の輸入なり金巾一品のみにして尙は斯くの如く將來支那人民生計の程度茲に達するに至れば日本の諸紡績會社が能く其三分の一を供給し得るや否や支那の海關報告に依れば貿易の發達は年々歳々荷物の増加は幾許を進め海船の噸數は之れと相伴ふや否やは之を比較する能はざるも元來船舶噸數にして其輸送荷物に對して剩餘あらば運賃下落し若し不足すれば運賃の騰貴するは自然の趨勢なるが若し船舶に剩餘ありとすれば舊來使用し來れる支那形帆船の區域に逸侵入するとは免れざるも此支那形帆船の近來に於ける増減は知るに由なきも現時長江に遡降する支那形帆船は實に夥しくして是等の區域に侵入し得べき餘地多しとす故に長江に於ける今後の海船運送業は前途益々多忙なりとす

南京港は約北緯三十二度〇七分東經百十八度四十五分に位し江蘇省江寧府上元江寧兩縣に屬す其通商碼頭は下關と稱し長江に沿たる一帯の地域なりとす南京は北京に對するの稱にして土人は雅名を撰んで金陵と稱す地勢は丘陵に據り大江に臨み長江中江陰に亞きて形勝地とす城廓の周圍は二十余哩ありと云ふ南京六朝以來の首都な

りしが故に城内外に名勝古跡多し人口約四十万と稱す輸入品は阿片、綿布、綿糸、石油、砂糖、海産物の類にして輸出品は綢緞、天鵝絨、藥材、皮革、羊毛、鴨毛、麥、胡麻の類に過ぎず。現時南京に海船を以て航海しつゝあるは招商局一社のみにして他の海船會社にては唯だ他日の設備を爲さんが爲めに單に土地の購入をなしたるに過す然して招商局海船が搭載する南京輸出入の貨物は夥多なるやと云はれ決して然らず人口四十万に對しては比較上却て尠少なり其原因は種々あるべけれども其一是開港日淺く購買力が發達せざると二は從來外國品は鎮江を經過して支那形帆船に依りて輸入し來りし習慣久しきが爲めに種々の關繫上未だ俄かに直輸出入の道が開けざると三は支那人の所謂洋務に慣ざるもの即ち海關の手續きを知らざるもの等の諸原因に基くものなりとす。

南京の將來は運送業者に採りて果して有望なるや將た見込なきや暫らく支那人の說を記して其當否を卜せんとす。

支那人の說に依れば省城のある所は勿論府廳のある地も亦た商業に適せず高宮なく施政密ならざる處は商業の發達を促せりと其例として長江に於ては南京、安慶、武昌は發達せずして府城なく縣城なき漢口と昔時の沙市は商業發達したるにわらずやと説き又天下四大鎮は河南の朱仙湖北の漢口江西の景德廣東の佛山なるが是等は府州縣城外の市鎮にあらずや又漢水運送上樞要なる襄陽府は商業盛ならずして其對岸なる樊城鎮は商業盛昌なりと又市鎮の起因を開くに商工業樞要の地には府州縣城外に於て別に城門閉閉の期限なく官吏の保護綿密ならざる所の一區域を選刺せば商民之

に集聚し市街は益々發達す市街は益々發達すれば匪類漸を以て潛匿す到底文官の制御に適せずと云ふ旨意に依りて市鎮を置き武官を派して之を治むと其説く所斯くの如し未だ其要を盡くす能はざれども然れども之を要するに保護を厚ふすれば勢ひ其税を厚ふせざるべからず匪類を豫防すれば城門の閉閉其他保甲保長等を設け變則なる戸籍苛酷なる警察法をも施行せざるべからず機敏を要する商民は其煩と苛税とに堪はず別に地域を撰んで無干渉なる商業區を開きたるものと想はる果して斯くの如くんば南京は遂に商業地に適せざるか記して以て後日を待つのみ。

運河

運河は支那に於ける樞要の交通路なり故に古來より南船北馬の諺あり就中江蘇浙江兩省内にある運河は實に蛛網の如し或諺に江蘇省にては運河の縱横せざる所は省外なりと云ふも過言にあらずと亦以て運河の盛を知るべし。

夫の有名なる隋の煬帝が開きたる南糧北運の本路を述べんに諸溪水と小運河と杭州府城に繞り嘉興府城を繞りて蘇州府城に達し小運河を経て太湖の水に通して無錫常州丹陽を経て鎮江口に至りて長江に入る其口三ヶ所にありて一を京口と稱し二を丹徒口と稱し三を江陰口と稱す江陰口は鎮江府の下流六十二海里の所にあり

長江を経て更に北方の運河に入るには甘泉縣の瓜州鎮口よりして揚州府城及び邵伯鎮を経て邵伯湖の水に通し京郵州城を経て河身漸く狭く然れども寶應縣より淮南府内に入れば界首汜水寶應白馬等の諸湖の水を聯ねて之れと相合して清江浦に達す此地は現時小蒸瀆船の最終港にして頗る繁盛に属す鎮江より茲に至る百四十二海里又

杭州より鎮江に至るの一路あり

清江浦より北すれば洪澤湖の水に通し老黄河を経て揚莊に達す黄河變流以來此地は運河の一港として舟車接續亦盛なり夫より邳州の河莊に至り數多の小流を受け盛莊に達すれば江蘇山東の交界なりとす濟寧州に至るの間微山、昭陽、泗山等の諸港あれども現時浚水の用をなさず此邊に至れば地勢は漸く高く運河の水は漸く乏しく諸所に閘門を設け流水を貯へて之を上下せしむ常に水量の不足に依りて行路の日子を費すと多かりしと明の永樂九年工部尙書は遂に汶上の老父白英の議を用ひて浚水を導きて之に灌ぎ其流水を兩し一は南流せしめ一は北流せしむ之を水脊と稱す然るに輒近新黄河の水勢は水脊北流の勢ひ壓し泥砂堆塞大ひに其効を害せりと云ふ

黄河を経て天津に達し白河に入りて通州に至る又運河を以て北京に達す是れ南糧北漕の運河本路の概略なりとす而して杭州より茲に至る迄本路の延長約七百海里支流の小運河は擧げて數ふべからず

運河を利用して小蒸滷船の航江を營むもの一抗滷あり二抗蘇あり三蘇湖あり四蘇練あり五鎮揚あり六鎮清あり之れ今日に於ける運河小蒸滷船航路の概略なり尙ほ日を追ふて益々相開かるゝ傾きあり盛なりと謂ふべし

蘇州

蘇州は約北緯三十一度十七分東經百二十四度七分に位し江蘇省蘇州府吳縣に屬し日本人居留地は府城の盤門外にあり其地勢は外洋と隔絶し悉く運河に依らざるべからず運河にて上海に通じ嘉興を経て杭州に通じ太湖に通じ無錫常州を經れば鎮江に通

す

人口約五十万人輸入品は阿片、煤炭、絲麻、漆水、靛の類輸出品は絲、綢、緞、茶及木綿紗の類なり交通は千八百九十八年に於ける小輪船舶は時裕倒る大東起り旅客は來經蘇杭州間約三万三千八百九十八年に於ける小輪船舶は時裕倒る大東起り旅客は來經蘇杭州間根據として這地に通航をなすもの日商大東滷船合資會社船三隻清商戴生昌三隻又清商鼎記三隻孰れも多きは七隻少なきも尙ほ三隻の客船を曳き各社毎日々發の航運を營む航路延長は八十裡にして運賃は上等一元八十仙中等六十仙下等三十五仙にして客引戻しが上等一人二十仙中等十仙下等五仙宛なりとす而して蘇申間航路は船客を主として荷物を從とす然れども從たる荷物皆無稀有の有様なり曳船小蒸滷船は登陸十四五噸速力十海里洋堅材築造二重聯成機關のものにして約七千兩の價格を要する小輪船なりとす船員の數は六人乃至八人にして其給料は一隻に付四十元乃至六十元を以て船長之を請負ふ海員の獎勵法は船主に依りて區々一定せず或は船客荷物の數に依り或は曳船の數に依り或は收入の運賃に依るものあり大東滷船合資會社が現時行ふ所の獎勵法は過失の有無運賃の收入を比較斟酌して一隻一回に付三元乃至五元を賞與すと云ふ又當地より無錫常州丹陽を經て鎮江に航運する小蒸滷船あれども水路深からざるを以て輿廢常なし従つて其水脚も變化定りなしと云ふ

小蒸滷船曳船航業之稱々其頂上に達したるものにあらざるか他日太湖に通じて大に末開の場所より新規なる荷物を運搬するにあらざれば此上の發達は望む能はざるものならんか

抗 州

北三十八

杭州口約北緯三十度十分東經百二十三度四十五分に位し浙江省杭州府錢塘縣に属し其通商碼頭は府城外の拱宸橋畔にあり其地勢は東南海を臨み(杭州灣)遙かに舟山列島寧波と相對し南方錢塘江流ありて舟楫の便自在なり西方は陸地として西湖あり附近に古跡又多し其運河を利用すれば湖州を経て安徽省の蘇州府に至るを得べし北方は嘉興府を経て蘇州に通じ又松江上海に通ずる至便の地なり
人口約七十万輸入品は阿片、錫、煤油、煤炭、火柴、砂糖、香港米の類輸出品は徽州茶、絲、綢、紙、扇、煙草

千八百九十八年に於ける小輪船舶は厚裕倒れ大東起り船客は蘇州の半ばにも及ばず小蒸滄曳船は上海を根據として嘉善嘉興を経て當地に通航をなすもの日商大東瀛船合資會社七隻清商戴生昌七隻孰れも荷物船五六隻客船一隻を曳き兩地間毎日々發航路延長は百五十哩なり當地の根據として清商戴生昌支局より小蒸滄船曳船三隻を蘇州に向け毎日發航せしむ此航路延長は百二十七哩其他當地を根據として清商怡記は小蒸滄曳船三隻を以て毎三日嘉興府を経て硤石に至るなり而して船客運賃は當地より上海に至る上等二元中等一元二十仙下等六十仙にして客引戻しは上等四十仙中等二十仙下等十仙なり嘉興嘉善の運賃は抗申あり運賃の八折即ち二割引とす
當地より上海に至る茶一噸の曳船料は二元乃至二元八十仙にして上海より當地に來る阿片百片入一函一元五十仙乃至一元八十仙なり又別に上海に於ける荷物藏入れ藏出し仲仕賃は七文揚子江航江滄船の藏出し入れ仲仕賃は一箇十四文なりにして揚子

江航江船の半額なり杭州に於ける荷物積入れ水揚賃は別に支拂を要せず荷物船夫の負擔なり

荷物船一ヶ月の借切料は船夫共に四十元乃至六十元小形は荷物二百五十乃至三百大形は五百五十乃至六百個を搭す茲に一箇と稱するは杭州茶箱の謂にして這の茶箱は十六個を以て一噸と算す

杭州の運送荷物全部と云ふ能はざるも少くも茶の輸出阿片の輸入は寧波と互に相消長するものにして尙ほ再言すれば運荷の小輪船曳船と寧波航船とは互に同一の荷物を相争ふものと謂ふべし

北三十九

1-522

3/34

明治三十三年二月二十一日印刷

明治三十三年二月二十五日發行

大阪市西區江戸堀北通四丁目
十六番屋敷ノ二

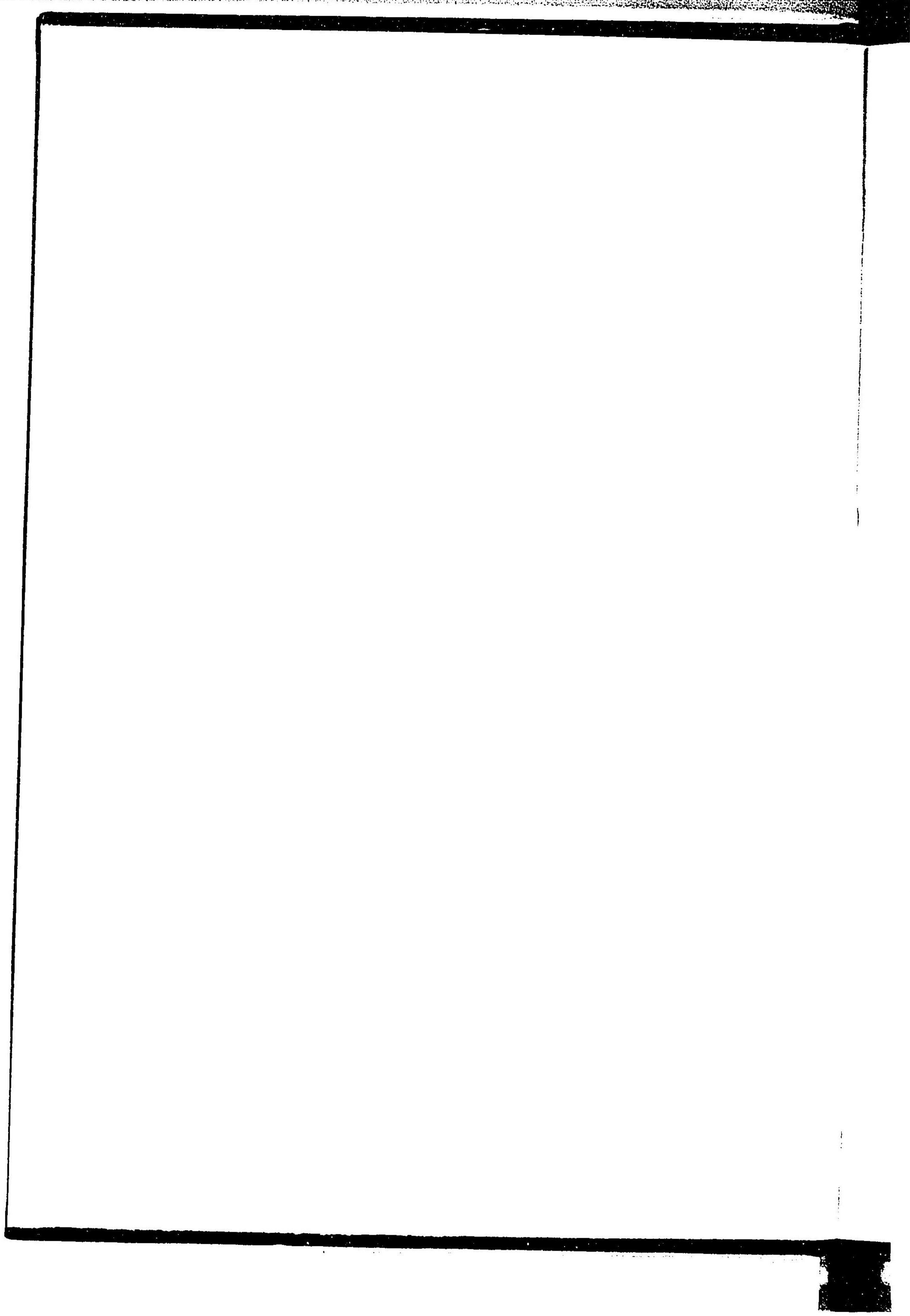
著者兼
發行者

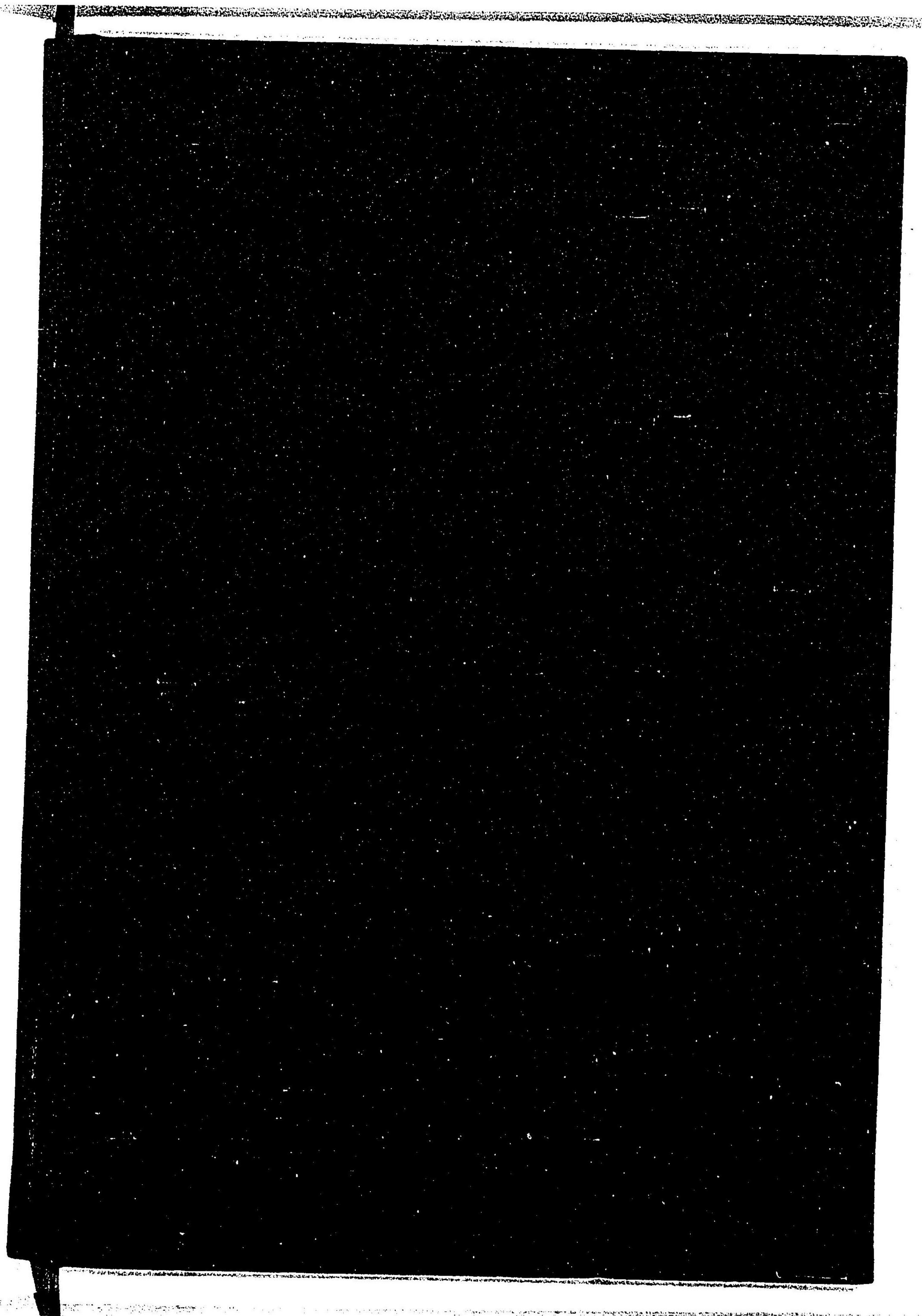
石原市松

大阪市西區榎下通一丁目
四十八番屋敷

印刷者

瀬戸清次郎





83
44

026661-000-5

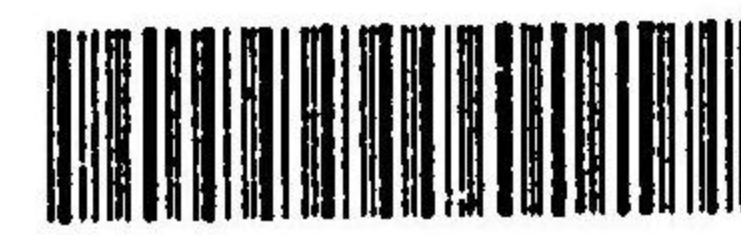
83-44

北清韓国長江蘇抗視察概略

石原 市松/著

M33

ADD-0350



1941年刊

